

## ▋▋イタリア研修旅行▋▋



12月16日(土)ローマにて

吉原 清子

ローマでは、バチカンを訪れた後、現代建築の イタリア国立21世紀美術館と、 アラパキスを訪問しました。

イタリア国立21世紀美術館は、ローマ郊外にあり、専用バスで自然を感じながら 向いました。待ち受けていたのは、何とも曲線が美しく、至ってシンプルな外装 のコンクリート打ち放しの建物でした。

外構のオブジェで、美術館に入場する前から、和むことができました。 この美術館は、建物そのものを味わうこともでき、また、美術作品の展示も多く、

見ごたえある美術館です。

また、MXXI とも呼ばれ、親しまれているようです。

イタリア国立21世紀美術館 設計者 ザハ ハデイド 場所 ローマ 郊外





美術館の中は、曲線の壁面、スロープや、階段が特徴的です。 とにかく、どの角度から見ても、空間の表情が面白いです。 色使いは、モノトーンで、白、黒、グレーの配色でとてもシンプルです。





ザハ ハデイドの設計の模型もあり、いろいろな角度から建物を見ることができ、 楽しめました。



Heydar Aliyev Center Baku, Azerbaijan

屋根と壁が一体化して、ガラスの壁面 以外は全て曲線で設計されていて面白い。 どうやら、外観だけではなく、屋内も天井 と壁が一体化しているらしい。



Galaxy SOHO Beijing, China

円を縦に積み上げたようなデザイン。 4つの円の中心にも、それらを繋ぐ円も 存在している。

他に、家具やオブジェ、モニュメント等 多くの作品も見ることができました。







ザハ ハデイドといえば、2020年東京オリンピックの会場の国立競技場の設計の選考で一度は選ばれ一躍有名になりました。しかし、建設費の検討で、彼女の作品は、却下されてしまいました。しかも、数か月後には、亡くなったというニュースまで飛び込んできました。国立競技場は、封印され、この先の作品を生み出すこともできなくなりとても残念に思います。今回の、研修旅行で、イタリア国立21世紀美術館に訪れ、多くの作品を見ることができたのが、とても幸運に思えました。

ザハ ハデイドの設計した建築物を、また訪れる機会があることを願います。



アラパキス美術館 設計者 リチャードマイヤー

場所 ローマ テベレ川のほとり

アラパキスとは、平和の祭壇という意味。 2000年前、古代ローマ時代の、儀式のため に創られた祭壇です。

そして、この美術館は、祭壇を守る為に、 2006年、リチャードマイヤーの設計により 建てられる。

もともとの祭壇は、そのままに。

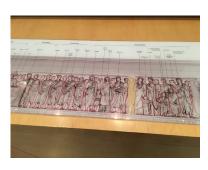
祭壇を覆う形で建てられたそうで、人々が 平和を願っていた事や、祭壇の重要な意味 が伝わってきます。

建物自体、壁面全体がガラス張りで、中からも外からも、それぞれの 状況をよく見ることができました。

建物の中にありながらも、人々に見守られている感じがしました。







建物の周辺は、とても交通量が多かった。 美術館の前には、噴水があり、人々が、 のんびり過ごす光景を見て、温かさを感じました。

